



「あけぼの山公園さくら山」を歴史的な地域資源に！ 柏市と事業協定を締結しました ■締結日：令和2年2月17日

国立大学法人千葉大学と柏市は、2020年2月17日に、「あけぼの山公園さくら山保全再生事業」に係る協定を締結しました。県内有数のサクラの景勝地である同公園を、歴史的な地域資源の1つとして活用するための事業を開始します。

■200年以上地域の人々に愛されたサクラの 保全再生に向けて

千葉県柏市布施にあり、江戸時代からサクラの景勝地として、多くの旅人や地域の人々を楽しませてきた「あけぼの山公園さくら山」。そこに植栽されている多くのサクラ（ソメイヨシノ）が老木化しており、その保全と再生が急務となっています。

また、これまでの千葉大学の調査研究により、「さくら山」の起源が江戸時代の中期頃に、時の為政者ではなく地域住民の手により整備され、1970（昭和45年）に柏市の風致公園となるまで200年以上にわたり維持管理されてきたことが明らかとなりました。造園や園芸文化史からの側面だけでなく、地域資源の1つとして注目に値します。

千葉大学は、平成23年10月29日に柏市と包括連携協定を結び、地域社会の発展と人材の育成に寄与するため、相互に連携してきました。この協定に基づく連携のもと、「あけぼの山公園さくら山」におけるサクラの保全および再生を目的として、このたび、新しく協定が締結されました。大学と自治体が連携してサクラの老木化問題に取り組みます。



「あけぼの山公園さくら山」ソメイヨシノのようす

■主な連携事項

- ・さくら山の保全及び再生に関すること
- ・千葉大学による桜の樹体生理に係る研究開発や地域貢献に関すること
- ・事業の推進や地域の文化振興のための知的資源、人的資源及び物的資源の活用に関すること
- ・地域活動の促進や人材育成に関すること